

勤労者看護実践のための思考過程が学べる 看護学生向け e ラーニング教材の開発計画

Research Plan of e-learning Materials Development for Nursing Students
to Learn Thinking Process for Practicing Nursing Cares to Workers

中山 かつよ* ** 都竹 茂樹*** 喜多 敏博*** 鈴木 克明***

Katsuyo NAKAYAMA** Sigeki TSUZUKU*** Toshihiro KITA*** Katsuaki SUZUKI***

熊本大学大学院教授システム学専攻* 中部労災看護専門学校**

熊本大学教授システム学研究センター***

*Graduate School of Instructional Systems, Kumamoto University

**Chubu-Rosai Nursing School

***Research Center for Instructional Systems, Kumamoto University

＜あらまし＞ 勤労者看護とは、「勤労者が健康と労働とをよりよく調和させ、勤労者各人がその健康レベルに応じて健康的に働くことができるよう、看護の立場から主として臨床の場で健康支援活動を実施すること」である。現在の社会において、労働力確保に向けた疾病と就労を両立させる支援は国においても大きな課題となっている。発表者が所属する専門学校は、国策として「治療と就労の両立を目指す勤労者（労働者）のための医療」を推進することを使命とした組織に属しているため、勤労者看護が教育課題の一つとなっている。しかし現行の教育実態から臨床現場で勤労者看護を実践するための学習が不十分であることがわかった。そこで、勤労者看護を実践できる看護者の教育に貢献する e ラーニング教材の開発に取り組んでいる。過去の実践事例をもとに現場で遭遇しやすい事例や具体的な介入方法を知り、教材に盛り込むことで、実践につながる事例学習教材をめざす。本発表では、教材開発とその評価についての計画と開発の経過について示す。

＜キーワード＞ 就労 治療 両立支援 勤労者看護 看護基礎教育 e ラーニング 教材開発

1. はじめに

社会生活を送るうえで生活時間の大半をしめる労働を、生活から切り離して考えることは不可能である。近年、定期健康診断における有所見率は増加傾向にある。また我が国の労働人口は年々減少しているが、病気を理由に休職した人が復職する率は低く、また復職できたとしても多くの困難を抱えている。労働力の確保が重要である反面、健康障害を抱えたまま働く人に対する支援は、未だ不足している状態にある。したがって地域だけでなく病院での医療においても、働く者の目線で行う医療の実現が期待されている（労働者健康福祉機構 2009）。発表者が所属する労災看護専門学校は、このように働く人が病気に罹患しても、治療と労働のバランスを取りながら働き続けることを支援できる「勤労者看護」の実践者の育成を使命としている。しかしながら、厚生労働省が定める現行の看護師養成のカリキュラムには、働く人を対象とした科目は設定されていないため、

同組織内の看護師養成校（9 校）では、「勤労者医療概論」（労働者健康安全機構 2017）で設定された学習内容を、指定規則（厚生労働省 2016）で定められた分野に分散させ、含める形で教育課程を整備している。しかし平成 28 年度の機構本部の調査では、教育のための時間もその内容も期待通りに実践できていないことが分かった。特に教育内容は、臨床看護師（認定看護師など、教育することが厚生労働省の指定規則によって認められている者）が実践事例を紹介する程度となっており、専任教員による事例を使った看護過程の演習が行われているわけではなかった。看護過程は、情報収集・アセスメント（看護介入すべき問題の特定）・看護計画立案・実践・計画の評価といった看護を実践するための思考の過程である。臨床における看護実践力の育成において、事例を用いた看護過程を展開する演習の教育効果は高い（福岡ほか 2006）。看護師養成カリキュラムにおける各看護専門領域（成人看護学、老年看護学など）の教育では、事例を用いて看護

過程を展開する演習を組み込むのが一般的である。その事例教材も多く出版されている。しかし、上記に該当する勤労者看護の教材はまだない。

したがって本研究では、看護基礎教育の段階で臨床において勤労者看護を実践するために必要な、情報収集から問題抽出、計画立案、実践、評価までの一連の知識をつなぐ看護過程を学べる教材の開発を目的とする。

2. 研究方法

1) 研究の対象

A 労災看護専門学校における「勤労者看護」の科目対象学年の学生 80 名

2) 学習目標の設定

病院の看護部キャリアラダーの第一段階および勤労者看護の看護過程展開に必要な学習内容の課題分析から学習目標を設定する。

3) e ラーニング教材の開発

- ①基礎看護教育における勤労者看護の実践に必要なコンピテンシーのリスト化
- ②e ラーニング化する学習内容の選定
- ③e ラーニング学習教材の企画・プロトタイプ作成
- ④専門家によるレビューと改善
- ⑤本校での試行と評価

【評価視点】

- ・看護過程実践レポートの内容分析による学習内容の理解度を評価。
- ・教員・学生を対象としたアンケート調査による、教材の活用のしやすさを評価。
- ・教材開発における経済性を評価。

⑥プロトタイプの修正

4) 考察

- ①「勤労者看護」教育内容の e ラーニング化の成果と課題
 - ②「勤労者看護」の基礎教育における今後の課題について
- 以上、2 点について考察する。

3. 結果

現在、e ラーニング化する学習内容を選定する段階にある。

1) 学習目標の設定について

勤労者看護の看護過程展開に必要な学習内容の課題分析を実施した結果、6 つの学

習目標を設定できた。（表 1）

表 1. 事例学習の学習目標

学習目標
①労働生活の構成要素について説明できる。
②勤労者看護を実践するための4つの介入方法について説明できる。
③事例について、労働生活の構成要素をふまえた、「労働が疾病に影響する要因」「疾病が労働に影響する要因」についてアセスメントできる。
④事例について、労働と疾病のアセスメントを踏まえ、看護介入すべき課題が明らかにできる。
⑤事例について、看護実践のための4つの介入方法を基盤とした問題解決のための目標およびケア計画が立案できる。
⑥アセスメントから計画立案について、学生間でディスカッションしながら進めることができる。

2) 基礎看護教育における勤労者看護の実践に必要なコンピテンシーのリスト化について

同族病院の看護部において現認教育の一環として行われる勤労者看護の実践報告の資料から、過去 2 年間の報告内容について分析した。

勤労者看護ハンドブックでは、勤労者看護を実践するために必要な看護介入として、①健康状態と労働の未来を見越すこと②健康と労働のバランスをとるカギを見つけること③その人らしい生活の工夫、行動を見出すこと④必要な機関・人・モノを繋ぐことの 4 点を挙げている。症例ごとに、「疾患」「職業」「取り上げた介入すべき課題」に対し、4 つの看護介入がどのように実践されたかをリスト化した。

4. 今後の予定

今後、リスト化された実践概要を教育目標と照合し、教材としての事例を作成する。以降、計画に則り、プロトタイプ開発へ進める。

参考文献

- ・福岡美紀ほか(2006)看護基礎教育における模擬患者を導入した看護過程の教育効果とその課題，島根大学医学部紀要 29:pp15-21
- ・保健師助産師看護師学校養成所指定規則，<http://law.e-gov.go.jp/htmldata/S26/S26F03502001001.html>
- ・勤労者医療あり方検討会報告書(2009)：勤労者健康福祉機構
- ・勤労者医療に関する看護プロジェクト編著(2017)：勤労者医療概論，独立行政法人労働者健康安全機構